

令和8年度版

# 予防接種を 受けましょう



名古屋市

# 目次

予防接種とは	1
定期予防接種と任意予防接種	2
ワクチンとは	3
予防接種の副反応	4
副反応による健康被害の救済制度	5
予防接種を受けましょう	6
ロタウイルス	10
B型肝炎	11
五種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ・ヒブ)	12
小児肺炎球菌	14
BCG	15
麻しん・風しん	16
水痘(みずぼうそう)	17
日本脳炎	18
子宮頸がん	19
おたふくかぜ	21
おしえて予防接種!~こんなときどうする?~	22
なごみ-by母子モ	23
スケジュール	24
接種間隔の数え方	26
ちょっと待った!その予防接種大丈夫?!	27
シール式接種券について	28
名古屋市外で予防接種を受けられる方へ	29
チェックリスト	裏表紙

# 予防接種とは

---

私たちの周りには様々な細菌やウイルスが存在していて、それぞれに対する抵抗力(免疫)がないと、病気にかかってしまいます。

生まれたばかりのお子さまは、お母さんから免疫を分けてもらっています。しかし、分けてもらった免疫は時間の経過とともに失われていくため、お子さま自身で免疫をつくって病気を予防する必要がでてきます。その助けとなるのが予防接種です。

赤ちゃんは免疫をつくる力が未熟なため、同じ病気でも大人がかかった場合より重症になりやすいことが多く、また、発育とともに外出の機会が多くなると、感染症にかかる可能性も高くなります。予防接種を正しく理解し、お子さまの健康にお役立てください。



# 定期予防接種と任意予防接種

予防接種には法律で市町村が接種を行うことが定められている定期予防接種と、それ以外の任意予防接種があります。また、名古屋市では、一部の任意予防接種について、助成制度を設けています。定期予防接種や名古屋市が実施する任意予防接種は、予防接種ごとに対象となる年齢、接種回数、接種間隔等が定められているため、注意してください。

## 子どもの定期予防接種

ロタウイルス、B型肝炎、五種混合(DPT-IPV-Hib)、小児肺炎球菌、BCG、麻しん・風しん、水痘、日本脳炎、二種混合(DT)、子宮頸がん

## 子どもの任意予防接種

●名古屋市が半額助成しているもの(自己負担金有)

おたふくかぜ

※生活保護世帯、市民税非課税世帯の方は自己負担金が免除されます。事前に申請が必要ですので、詳しくは保健センターへお問い合わせください。



●その他のもの

高齢者以外のインフルエンザ、狂犬病、A型肝炎など

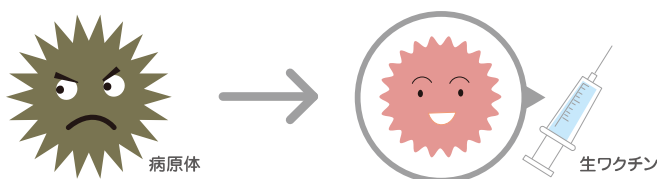


# ワクチンとは

予防接種に使用する薬液を「ワクチン」といいます。ワクチンには大きく分けて「生ワクチン」と「不活化ワクチン」があり、性質に違いがあります。

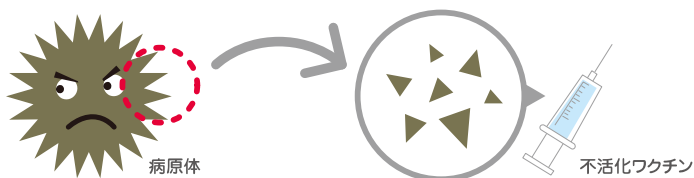
## 生ワクチン

病気の原因となるウイルスや細菌について、感染しても症状がほとんどでないくらい毒性が弱い性質にしたものを、生きたまま接種して、感染させることで免疫をつくるワクチンです。  
(ロタウイルス、BCG、麻しん・風しん、水痘、おたふくかぜなど)



## 不活化ワクチン

病気の原因となるウイルスや細菌を処理するなどして、免疫が反応するために必要な成分だけを精製して接種するワクチンです。十分な免疫を得るためには複数回の接種が必要なものが多いです。  
(B型肝炎、五種混合(DPT-IPV-Hib)、小児肺炎球菌、日本脳炎、二種混合(DT)、子宮頸がんなど)



# 予防接種の副反応

現在のワクチンは、できるだけ副反応が起きないように安全性を重視して開発されていますが、完全に副反応の無いワクチンはありません。

## 生ワクチンの主な副反応

生きたウイルスや細菌を感染させて免疫を作るため、本来その病気にかかった場合と同じ症状が出ることがあります。(通常、自然感染した場合に比べて極めて軽い症状です。)

## 不活化ワクチンの主な副反応

免疫をつけるために必要な成分を接種するのですが、免疫が反応することによって、発熱や接種部位の腫れなどがしばしば起こります。通常は一過性のもので、症状が酷くなければ特に治療の必要はありません。極めて稀ですが、重篤な副反応では、脳炎、脳症などがあります。このような症状も免疫の過剰な反応が原因と考えられており、予防接種に限らず、風邪をひくなど、免疫を刺激するきっかけの後に起こることがあります。

予防接種と聞くと副反応を心配して、消極的になってしまう方もいらっしゃいますが、予防接種を受けないことで病気にかかるリスクは、副反応のリスクよりもずっと大きなものです。予防接種で病気の流行が抑えられていると、予防接種の効果を実感しにくいのですが、予防接種のおかげで流行していないのであり、昔は様々な病気で多くの方が亡くなっていたのです。

# 副反応による健康被害の救済制度

予防接種によって重篤な副反応が起こることは極めて稀ですが、完全にゼロにすることはできません。万が一、予防接種の副反応によって健康被害が生じた場合は、予防接種と症状との因果関係について、国の審議会で認定を受けたうえで、医療費、医療手当のほか、障害年金や死亡一時金などが給付される救済制度が設けられています。なお、脳症などは風邪などの後に起こることもあり、予防接種によって起きたことを厳密に証明することは困難なケースもあります。

定期予防接種と任意予防接種では救済制度が異なり、障害年金や死亡一時金は任意予防接種の方が金額が少なくなっていますが、名古屋市の実施する任意予防接種については、市が加入する保険により定期予防接種と同程度の給付があります。(完全に同じではありません。)

万が一、予防接種の副反応により健康被害が生じた場合は、お住まいの区の保健センターにご相談ください。



# 予防接種を受けましょう

## ① 予防接種の計画を立てましょう。

予防接種にはたくさんの種類がありますが、接種できる年齢や接種の間隔は、予防接種の種類によって決められています。

あるワクチンを接種した場合、次に他のワクチンを接種できるまでの間隔は、ワクチンの種類によって異なります。

生ワクチン → 4週(27日)以上あける → 生ワクチン  
(ロタウイルスを除く) (ロタウイルスを除く)  
その他の組み合わせは接種間隔の制限がありません

また、不活化ワクチンは複数回の接種を必要とするものが多いですが、1回目と2回目は○週以上の間隔を空けなければいけないといった決まりがワクチンごとにあります。

特に生後6か月くらいまでの時期は、短期間にたくさんの予防接種を受ける必要があるため、あらかじめスケジュールを立てて、計画的に接種を受けてください。

### 同時接種について

同時に複数のワクチンを接種する同時接種は、接種医師が必要と判断すれば、保護者の同意を得て行うことができます。早い時期に予防接種を済ませて免疫をつけることが可能なことや、保護者の負担軽減などのメリットがあり、最近では同時接種を行う医療機関が増えています。一般的には、同時接種を行っても効果や副反応には影響ないといわれています。

## ② 医療機関に予約をしましょう

名古屋市の予防接種は、市内の指定医療機関(\*)で受けることができます。まずは、かかりつけ医等が指定医療機関かどうかご確認ください。接種できる医療機関がわからない場合は、保健センターまたは名古屋市予防接種電話相談窓口にお問い合わせいただくか、名古屋市のホームページをご覧ください。通常、事前に予約が必要になりますので、必ず予約をしてからお出かけください。

(\*)諸事情により、市外の医療機関での接種を希望される場合は、事前に申請が必要です。詳しくは29ページをご覧ください。

市内指定医療機関  
DLして(またはWeb版にて)施設検索→



## ③ 当日のチェックポイント

① 予防接種は体調の良いときに受けることが原則です。当日はお子さまの状態をよく観察し、ふだんと変わったところがないか注意してください。お子さまの健康状態に気がかかることがあれば、医師に相談してください。



# 予防接種を受けましょう

② 予防接種を受けるには、以下のものがが必要です。お忘れのないようにお持ちください。

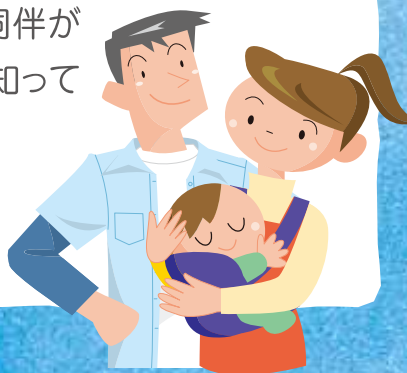
母子健康手帳	接種の記録をしたり、これまでの接種状況を確認するために必要です。
シール式接種券	予防接種を受けるための接種券です。
子ども医療証や マイナンバーカードなど お子さまの住所がわかるもの	本人確認のためにお持ちください。

③ 接種の際に必要な予診票及び説明書は、予約時などに医療機関でお受け取りください。

説明書をよくお読みいただき、予防接種の効果、副反応等についてご理解いただいたうえで接種を受けてください。

④ 予診票を接種当日にご記入ください。予診票は、接種する医師にとって大切な情報です。なるべく詳しく、正確に記入するようにしてください。持病、アレルギー、服用中の薬などがある方は、必ず医師に伝えてください。

⑤ 予防接種には原則、保護者の同伴が必要です。日頃の健康状態をよく知っている保護者の方が付き添ってください。



# ここからは 子どもの定期予防接種 を紹介します

定期予防接種は、予防接種法という法律に基づいて、市町村が実施しているものです。法令によって実施する予防接種の種類と、対象となる年齢や接種回数等が定められています。名古屋市では、対象となる方は、市内の指定医療機関において無料で接種を受けることができます。

病気の流行を抑えるために、対象の方は接種を受ける努力義務があり、原則として、全ての方に受けていただく予防接種です。



# ロタウイルス 生ワクチン

## どんな病気を予防するの？

ロタウイルスは、乳幼児期に多く起こる感染性胃腸炎の原因となるウイルスの1つです。1回の感染では免疫が完全にできず、何回も感染を繰り返すことがあります。ただ、だんだん症状が軽くなっていきます。ほとんどの方が5歳までに一度は感染するといわれています。

嘔吐、水のような下痢を繰り返すのが特徴的な症状で、発熱を伴うことも多くみられます。通常は1週間程度で治りますが、重症になると、嘔吐と下痢によって水分が失われ、脱水症状で入院が必要になったり、まれに急性脳炎・脳症などの合併症が起こることがあります。初めての感染は重症になりやすいので、早めに接種を完了しましょう。

ロタウイルスワクチンは、口から飲むワクチンで、かかっても症状を軽く済ませる効果があります。ワクチンは2種類あり、有効性、安全性に差はありませんが、接種回数等が異なります。どちらか一方のみを選択して接種します。

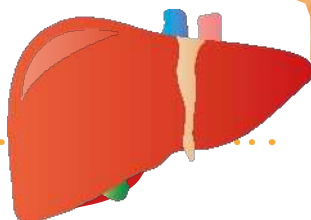


	2回接種ワクチン	3回接種ワクチン
対象年齢	出生6週0日後～24週0日後	出生6週0日後～32週0日後
接種回数	2回接種	3回接種
接種間隔	4週以上の間隔	

※いずれのワクチンも、1回目の接種は出生14週6日後までに接種しましょう。

# B型肝炎

不活化  
ワクチン



## どんな病気を予防するの？

B型肝炎ウイルスの感染によっておきる肝臓の病気です。B型肝炎ウイルスは、出産時の母子感染、性的接触、注射器の回し打ちなど、主に血液や体液を通じて感染します。また、頻度は低いものの、家族間や保育園などで唾液や汗を通じて感染することもあるともいわれています。

子どもは免疫が未熟なため感染するとウイルスを排除できないことがあり、0歳児で感染した場合は、ほとんどの方が将来に渡って持続的に感染してしまいます。また、最近では大人が感染しても持続的な感染になりやすい、欧米型のウイルスが増えていることも問題となっています。持続的に感染した方の一部は将来、慢性肝炎に進行し、さらにそのうちの一部は肝硬変や肝がんへ進行してしまいます。

対象年齢	0歳
接種回数	3回接種
接種間隔	4週以上の間隔で2回接種し、1回目から20～24週の間隔(最低20週以上)で3回目を接種。 ※2回目と3回目の間隔が短すぎる場合、十分な効果が得られない可能性があります。

# 五種混合(ジフテリア<sup>D</sup>・百日せき<sup>P</sup>・破傷風<sup>T</sup>・不活化ポリオ<sup>IPV</sup>・ Hib)

不活化  
ワクチン

どんな病気を予防するの？

## ジフテリア

ジフテリア菌の飛沫感染で起こる病気です。

感染すると、喉の腫れによる窒息や、菌の出す毒素による心筋炎や神経麻痺が原因で、5～10%程度の方が亡くなります。

## 百日せき

百日せき菌の飛沫感染で起こる病気です。

乳幼児がかかると重症化しやすく、激しい咳による呼吸困難や、脳炎や肺炎を併発して亡くなることもあります。生後2か月から可能な予防接種で、できるだけ早く受けることが望ましいです。

また、最近では予防接種の効果が無くなった大人が百日せきにかかることが増えており、子どもに感染させる原因にもなっています。長期間続く咳は、百日せきや結核の可能性がありますので、医師の診察を受けてください。

## 破傷風

土の中に潜んでいる破傷風菌が、傷口から感染して起こります。自分でわからないくらいの軽い擦り傷から感染することもあります。菌の出す毒素により神経の麻痺症状が起り、重症の場合は呼吸筋が麻痺して亡くなることもあります。



## ポリオ

ポリオウイルスの感染により、神経が冒され、手足に麻痺が残ったり、呼吸筋の麻痺で死亡することもある病気です。感染しても症状が出なかったり、風邪程度の症状で済む場合がほとんどで、麻痺になる割合は数百人～千人に1人程度といわれています。

日本を含む多くの先進国では根絶されていますが、まだ一部の国々ではポリオの流行が続いています。免疫を持っていないとウイルスが持ち込まれた場合に感染が広がってしまうため、予防接種を行う必要があります。

## ヒブ

ヒブは正式にはインフルエンザ菌b型という名前の細菌です。冬に流行するインフルエンザとは関係ありません。ヒブは、比較的多くの子どもの鼻やのどに住み着いていますが、そのままでは症状はありません。

しかし、まれに体内に侵入し、脳を覆う髄膜を侵す細菌性髄膜炎の他、敗血症、中耳炎といった様々な病気の原因となります。

対象年齢	1期:生後2か月～90か月未満／2期:11歳～13歳未満 ※2期はDT(ジフテリア・破傷風)ワクチンで接種します。	
接種回数 と間隔	1期	2期
	初回接種 3週以上の間隔で3回 追加接種 初回接種終了から6～18か月後(最低6か月以上後)に1回 ※接種に用いるワクチンの種類によって追加接種の標準接種期間が異なります。	1回接種

# 小児肺炎球菌

不活化  
ワクチン

## どんな病気を予防するの？

肺炎は様々な原因で起こりますが、肺炎球菌は、肺炎の原因としてもっとも多い細菌です。比較的多くの子どもの鼻やのどに住み着いていますが、そのままでは症状はありません。

しかし、まれに体内に侵入し、脳を覆う髄膜を侵す細菌性髄膜炎の他、敗血症、中耳炎といった様々な病気の原因となります。細菌性髄膜炎は亡くなったり、後遺症が残ることの多い病気で、免疫の未熟な乳児がかかることが多いため、生後2か月以降できるだけ早い時期に接種を開始して、免疫をつけておくことが望まれます。



対象年齢	生後2か月～5歳未満
接種回数 と間隔	<b>初回 接種</b> 4週以上の間隔で3回
	<b>追加 接種</b> 初回接種終了から60日以上の間隔をあげ、 かつ1歳の誕生日以降に1回

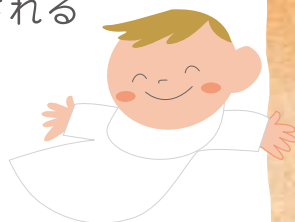
※接種回数と間隔は、生後2か月～7か月未満で開始したときのものです。開始月齢が遅れた場合、必要な接種回数が少なくなります。詳しくは母子健康手帳をお読みください。

# BCG

生  
ワクチン

## どんな病気を予防するの？

BCGは結核の予防接種です。一般に結核というと、肺に結核菌が感染することで起こる肺結核が知られていますが、乳幼児が結核菌に感染すると粟粒結核や結核性髄膜炎という、全身や脳が冒される重篤な症状になることがあります。BCGはこのような病気の予防に高い効果があります。



海外ではBCGを行っていない国も多いですが、日本は現在も結核菌がまん延し、乳幼児の感染リスクが高いことから、実施されています。

対象年齢	0歳
接種回数	1回接種

### 接種後のご注意

接種してから2～4週間後に、接種部位が赤くなったり、膿が出たりしますが、免疫が正しくついている証拠ですので、包帯や絆創膏はせずに、清潔に保ってください。やがて、かさぶたになって治ります。3か月以上続くときは、医師の診察を受けてください。

また、このような症状が接種後10日以内(多くは3日以内)に出現した場合(コッホ現象)は、すでに結核に感染している可能性がありますので、接種した医師の診察を受けてください。

# 麻しん・風しん 生ワクチン

## どんな病気を予防するの？

麻しん(はしか)は発熱や発しんを主な症状とする病気で、風邪とは異なり肺炎や脳炎を合併して重症化することがあり、現在でも、かかった場合には500～1,000人に1人が亡くなるといわれています。

風しんは三日ばしかとも呼ばれ、はしかより症状は軽いことが多いのですが、妊娠初期に感染した場合は、赤ちゃんに影響が出る可能性が高いことから問題となっている病気です。免疫を持っていない成人男性が多いため、小規模な流行を繰り返しており、赤ちゃんに影響の出る事例が発生しています。

麻しんや風しんは感染力がとても強く、かかると有効な治療薬が無いいため、予防接種で予防することが重要です。1回の接種では効果が不十分なことがあるため、1期、2期で2回接種を行う制度となっています。



対象年齢

1期：1歳／2期：小学校入学前年度(年長児相当)

接種回数

1期、2期それぞれ1回接種

# 水痘(みずぼうそう)

生  
ワクチン

## どんな病気を予防するの？

水痘ウイルスの感染によって、発熱とともに全身に発しんが出る病気です。軽い病気のイメージをお持ちの方も多いのですが、発しんが膿んで痕が残ったり、脳炎等を合併して重症化することもあり、年間20名前後が水痘で亡くなっています。感染力が強いため幼稚園や保育園で拡大しやすく、ワクチンの接種をしていないと、ほとんどの方が小学校入学までに自然感染してしまいます。感染の予防のためには、なるべく早く接種を受けてください。



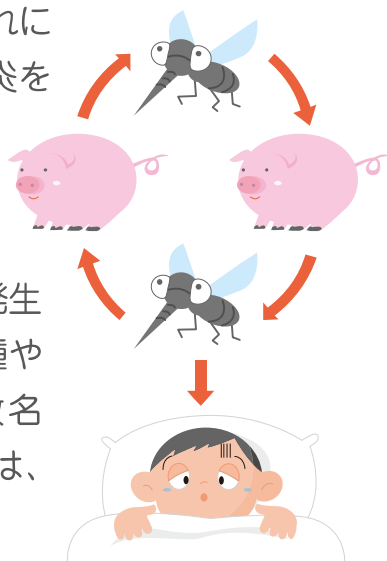
対象年齢	1歳～3歳未満
接種回数	2回接種
接種間隔	6～12か月の間隔(最低3か月以上)

# 日本脳炎

不活化  
ワクチン

## どんな病気を予防するの？

日本脳炎ウイルスは人から人へは感染しませんが、感染している豚を刺した蚊が、人間を刺すことによって感染します。感染しても多くの場合は症状が無かったり、風邪のような症状が出るだけですが、まれに脳炎を起こします。いったん脳炎を起こすと致死率は高く、回復しても半数程度の方に障害が残るといわれています。昔は国内で年間1,000人を超える患者が発生していましたが、現在は予防接種や生活環境の変化により、年間数名まで減少しています。発生地域は、西日本に多い傾向があります。



対象年齢	1期:生後6か月～90か月未満／2期:9歳～13歳未満	
接種回数 と間隔	1期	2期
	<b>初回接種</b> 1週以上の間隔で2回 <b>追加接種</b> 初回接種終了から約1年後 (最低6か月以上後)に1回	1回接種
※標準として、3歳で2回接種し、4歳で1回接種します。		

# 子宮頸がん 不活化 ワクチン

## どんな病気を予防するの？

子宮頸がんは、子宮の入り口にできるがんで、ヒトパピローマウイルスに感染することが主な原因となります。性交渉によって誰でも感染する機会のあるウイルスで、8割くらいの女性が一度は感染するといわれています。

感染しても自然に排除されることが多く、がんになるのは1%以下といわれていますが、年間約10,000人が発病し、約3,000人が亡くなっています。

ワクチンは、ウイルスの感染を防ぐことによって子宮頸がんを予防しますが、ウイルスの型によっては予防できない場合もあるので、大人になってからは、子宮がん検診を定期的に受けることも必要です。



対象者	小学校6年生～高校1年生相当年齢の女子	
接種回数	2回または3回接種	
標準的な接種間隔	シルガード9 (3回法)	1回目 → 2か月後 → 2回目 → 4か月後 → 3回目
	シルガード9 (2回法)	1回目 → 6か月後 → 2回目 (1回目が15歳未満のとき)

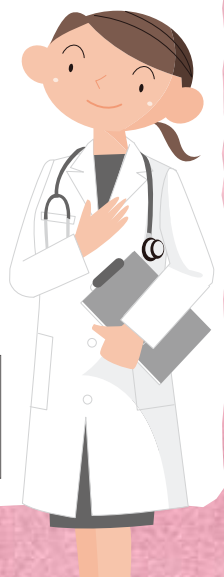
# ここからは 子どもの任意予防接種 を紹介します

任意予防接種は、定期予防接種以外の予防接種で、通常は、希望される方だけが自費で任意に接種を受けます。

任意予防接種には狂犬病やA型肝炎等、国内ではほとんど流行のないものもありますが、国内で流行していて、予防接種の効果が高い病気もあり、名古屋市では、おたふくかぜの任意予防接種について費用助成を行っています。対象にあてはまる方は、市内の指定医療機関で自己負担金(通常半額程度)を支払って接種を受けることができます。

なお、生活保護世帯または市民税非課税世帯に属する方は、自己負担金の免除制度があります。事前に申請が必要ですので、詳しくは保健センターへお問い合わせください。

自己負担金の免除制度

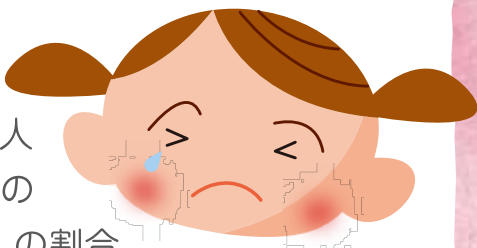


# おたふくかぜ

生  
ワクチン

## どんな病気を予防するの？

ムンプスウイルスの感染によって、耳の下、頬の後ろ側などが腫れたり、発熱などの症状が出る病気です。数十人に1人程度の割合で無菌性髄膜炎を起こして入院が必要となります。また、1,000人に1人くらいの頻度で難聴の後遺症が生じます。3人に1人の割合でかかっても症状が出ないことがありますが、その場合でも難聴の後遺症が生じる可能性はあります。



助成対象年齢	1歳～小学校入学前年度(年長児)
接種回数	1回接種
自己負担金	3,000円
その他の条件	過去におたふくかぜにかかったことや、日本でおたふくかぜの予防接種を受けたことがない方

### 接種後のご注意

おたふくかぜは、予防接種を受けてもかかってしまうことが2～3割あるといわれます(ほとんどの場合症状は軽くなります)。予防接種の効果をより確実にするために、日本小児科学会等では2回の接種が推奨されていますが、2回目の接種は助成の対象となりませんのでご注意ください。

# おしえて予防接種! ~こんなときどうする?~



予防接種って、種類も回数もたくさんあって、わかりにくいけど、『なごや子育てアプリ なごみーby母子モ』の予防接種管理機能でスケジュールが簡単に作れて、接種前にお知らせしてくれるんだって。

「同時接種」と言って、医師の判断で同時に複数のワクチンを接種することができて、医療機関に行く回数が少なくて済むよ。もちろん、1種類ずつ接種することもできるよ。



急に子どもの体調が悪くなったりして、予定通りに受けられなくなったときも、簡単にスケジュールを作り直すことができるよ。接種時期をのがして感染すると重症化しやすい病気もあるから、決められた期間内に受けるようにしよう。



接種当日は、子どもの体調を確認するとともに、**母子健康手帳・シール式接種券・子ども医療証やマイナンバーカードなどお子さまの住所がわかるもの**を忘れずに持って行ってね!



「なごや子育てアプリ なごみー」予防接種管理機能についてはこちら→

この他にも、予防接種について気になることがあるときは、各区の保健センターや予防接種電話相談窓口にご相談ください!

**\*\*電話番号はこの冊子の裏表紙をご覧ください。\*\***

# 名古屋市が実施する予防接種 スケジュール(乳幼児)

		2 か 月	3 か 月	6 か 月	9 か 月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	備 考		
定期 接 種	ロタウイルス 2回接種ワクチン 3回接種ワクチン	↓	↓										接種可能期間が短いので、他の予防接種のスケジュールも考えて、計画的に接種を受けてください。	
	B型肝炎	↓	↓	↓										お母さんから赤ちゃんへの感染予防として、出産直後にB型肝炎ワクチンの接種を受けた方は対象となりません。
	ジフテリア・百日せき・破傷風・ 不活化ポリオ・ヒブ (DPT-IPV-Hib)第1期	↓	↓	↓										生後2か月になったら、できるだけ早く開始しましょう。追加接種は初回接種が完了してから6か月以上の間隔をあけてから行ってください。
	小児肺炎球菌	↓	↓	↓										生後2か月になったら、できるだけ早く開始しましょう。追加接種は1歳を過ぎてから行ってください。
	BCG	↓		↓										生後1歳までの接種により、小児の結核の発症や重い後遺症が残るリスクを減らすことができます。
	麻しん・風しん(MR) 第1期、第2期						↓						↓	1期は1歳になったら、2期は年長児相当の学年になったら、できるだけ早く接種しましょう。
	水痘 (みずぼうそう)						↓	↓						1歳になったら、できるだけ早く接種しましょう。
	日本脳炎 第1期													↓
接任意	おたふくかぜ						↓						接種する場合は、1歳を過ぎた後できるだけ早めが望ましいです。遅くても、保育園等で集団生活を行う前までに接種を受けましょう。	

対象年齢

↓接種時期の目安(あくまでおおまかな目安です。必要な接種間隔を考慮して、スケジュールを決めてください。)

# 接種間隔の数え方



「4週以上の間隔をあけて」接種するって、  
どういうこと?

例えば、1日(月)に1回目の予防接種を行い、4週以上の間隔をあけて2回目の予防接種をする場合、以下のようになります。

日	月	火	水	木	金	土
	1 (接種日)	2 (1日目)	3 (2日目)	4 (3日目)	5 (4日目)	6 (5日目)
7 (6日目)	8 (7日目)	9 (8日目)	10 (9日目)	11 (10日目)	12 (11日目)	13 (12日目)
14 (13日目)	15 (14日目)	16 (15日目)	17 (16日目)	18 (17日目)	19 (18日目)	20 (19日目)
21 (20日目)	22 (21日目)	23 (22日目)				
28 (27日目)	29 接種可能	30	31			

4週(27日)以上の間隔をあけると  
29日(月)から接種可能

**注意** 同じワクチンを接種する場合は、ワクチンごとに1回目と2回目を〇週以上あけないといけないといった決まりがあります。

こういった場合、接種した日の〇週間後の同じ曜日から次の接種ができます。

決められた間隔をあけて接種しないと、予防接種の正しい効果が期待できませんのでご注意ください。

各ワクチンのページで接種間隔の決まりを確認しましょう!

# ちょっと待った!その予防接種大丈夫?!

～間違った予防接種をしないように気をつけましょう～

## 【間違いの例】

### ケース1

小児肺炎球菌の接種を生後7か月で開始。接種回数は4回でいいよね?!



生後7か月で接種を開始した場合は3回接種だった!



#### 解説

小児肺炎球菌は接種を開始した時期によって接種回数変動します。生後7か月以上12か月未満で接種を開始した場合、初回接種2回+追加接種1回の計3回接種となります。詳しくは、母子健康手帳をお読みください。

### ケース2

B型肝炎は不活化ワクチンだから接種間隔は気にしないでいいよね?!



B型肝炎は1回目と2回目の間隔が4週以上、1回目と3回目の間隔が20週以上必要だった!

#### 解説

生ワクチン・不活化ワクチンで規定されている間隔は、他のワクチンを接種する場合です。同じワクチンを接種する場合は、ワクチンごとに必要な間隔が決まっています。予約の前に必ず前回の接種日を確認し、間隔が空いているか確かめましょう。

### ケース3

接種年齢の期限が近づいてきたため慌てて接種!



忘れていたけど、実は以前に接種していたため、余分に接種してしまった!

#### 解説

焦って接種すると、実は接種していたということがよくあります。予約前に落ち着いて必ず母子健康手帳を確認し、計画的に接種しましょう。

# シール式接種券について

名古屋市は、市内に住民登録のあるお子さんに個別通知を行っており、標準的な接種月齢・年齢の前後に、予防接種のご案内とシール式接種券をご自宅にお送りしています。

接種を受けるには、原則シール式接種券が必要です。お送りしたシール式接種券は、予防接種を受ける際に医療機関へ提出してください。

その他、注意事項がありますので、二次元コードから市公式ウェブサイトをご確認ください。

予防接種の個別通知  
(シール式接種券)



## 転入や紛失等でお手元にシール式接種券がない方へ

シール式接種券は、インターネットによる電子申請または各区保健センターの窓口で申請をすることができます。申請後、2～3週間ほどでご自宅に郵送で届きます。母子健康手帳がお手元にない方や海外接種歴のある方、母子健康手帳を再発行したため予防接種歴記入箇所が白紙の方、シール式接種券を持たずに接種し医療機関よりシール式接種券の発行を求められた方は、電子申請はできませんので各区保健センター窓口で申請をお願いします。詳しくは二次元コードから市公式ウェブサイトをご確認ください。

インターネットによる電子申請をする方



# 名古屋市外で予防接種を受けられる方へ

定期予防接種は、一定の条件により名古屋市外で接種を受けることができます。(注)任意予防接種(おたふくかぜ等)は対象外です。

## 県内市外の医療機関(愛知県広域予防接種事業)

事前に申請することで、名古屋市外(愛知県内)でも定期予防接種を受けることができます。

- 対象者…名古屋市に住民登録があり、県内市外の接種協力機関での接種を希望する方
- 医療機関…愛知県広域予防接種協力医療機関
- 費用…無料
- 事前の手続き(接種前に必ず手続きしてください)

電子申請・郵送申請・窓口(保健センター)申請のいずれかで申請(連絡票発行申請)できます。翌年の3月末までに受けられるすべての予防接種をまとめて申請してください。

県内市外の  
協力医療機関



子どもの予防接種(A類疾病)の  
愛知県広域予防接種



## 愛知県外の医療機関

接種前(実施依頼書発行申請)と接種後(費用助成申請)の二つの手続きで、愛知県外で受ける予防接種の費用助成を受けることができます。

- 対象者…名古屋市に住民登録があり、以下の理由により県外に滞在し予防接種を受ける方(里帰り出産、DV避難、児童福祉施設入所 等)
- 医療機関…医療機関のある市町村の予防接種指定医療機関  
【例】岐阜市の医療機関は、岐阜市の予防接種指定医療機関であること
- 費用…接種後に手続きすることで、接種費用の一部または全額の助成を受けることができます(上限あり)。
- 事前の手続き(接種前に必ず手続きしてください)

電子申請・郵送申請・窓口(保健センター)申請の  
いずれかで申請(実施依頼書発行申請)

- 接種後の手続き(接種前に事前申請をしている方が  
対象)

電子申請・郵送申請のいずれかで申請(費用助成申請) 愛知県外での  
定期予防接種



各制度の詳細や申請の手続きは、二次元コードから市公式ウェブサイトをご確認ください。

# チェックリスト

## 予約

- 接種日時点で対象年齢ですか
- 母子健康手帳を確認しましたか
- 前回の接種から必要な間隔が空いていますか

## 前日～当日

- お子さまの体調は良好ですか
- 母子健康手帳は持ちましたか
- シール式接種券は持ちましたか
- 子ども医療証やマイナンバーカードなどお子さまの住所がわかるものは持ちましたか

### 接種後は…

お子さまの体調に変化がないか注意しましょう。また、母子健康手帳の接種記録を確認しましょう。

## 保健センター電話番号一覧

おかけ間違いにご注意ください

千種保健センター 753-1982

熱田保健センター 683-9682

東保健センター 934-1218

中川保健センター 363-4463

北保健センター 917-6553

港保健センター 651-6537

西保健センター 523-4616

南保健センター 614-2812

中村保健センター 433-3093

守山保健センター 796-4624

中保健センター 265-2262

緑保健センター 891-3623

昭和保健センター 735-3962

名東保健センター 778-3114

瑞穂保健センター 837-3264

太白保健センター 807-3912